

広報内容（自由記述）

- ・施設見学会の開催および見学の随時受付（95）
- ・機関紙の発行（69）
- ・介護教室の開催（61）
- ・地域の広報誌の利用（22）
- ・社会福祉協議会，保健婦と連携をとる（15）
- ・ボランティア教室（14）
- ・施設のパフレットの配布（10）
- ・地域の祭りへの参加（10）
- ・講演会の開催（9）
- ・看護学生，医学生などの実習・介護体験（8）
- ・健康作り教室の開催（8）
- ・各種集会の会場提供（7）
- ・1日看護，介護体験の実施（6）
- ・町会の各部会にPR活動を行っている（6）
- ・ポスター作成・掲示（5）
- ・文書による行事案内と参加依頼（5）
- ・併設の病院利用者へのPR（3）
- ・他施設との交流（2）

VI 管理・研修

1) 看護・介護に関する研修

看護・介護職員に対する研修は、「定期的に行っており全職員が参加する」55.9%、「計画的でなかったり対象者が限られたりしているが行っている」42.4%、この2つの回答を合わせると98.3%と、ほとんどの施設が看護・介護職員に対し何らかの研修を行っている（表27）。

表27 看護・介護に関する研修

定期的に行っており全職員が参加する	225 (55.9)
計画的でなかったり対象者が限られたりしているが行っている	171 (42.4)
行っていない	2 (0.5)
無 回 答	5 (1.2)
合 計	403 (100.0)

2) 研修内容

研修内容は、「日常生活の介助技術」83.6%が最も多く、次いで「ケアプランのたてかた」77.4%と、日常のケアに関する内容が多い(表28)。

次に研修に関して、困難に思っていることを、自由に記述してもらった。その結果、交替制勤務のため、全員で、またシリーズを通しての参加が難しいこと、遠方に出かけられないという時間、費用の問題。人手不足の問題。職種が様々であることの問題。職員の研修意欲の問題などがあげられていた。

表28 研修内容(複数回答)

日常生活の介助技術	337 (83.6)
最新の看護知識	144 (35.7)
ケアプランのたてかた	312 (77.4)
その他()	141 (35.0)
回答施設数	403 (100.0)

研修に関して困難に思っていること(自由記述)

- ・交代勤務であるため研修会への全員参加、シリーズを通しての参加は難しい(50)
- ・勤務時間内の実施がむずかしい(37)
- ・遠方、全国レベルの研修会への参加が難しい(時間的問題、費用の問題など)(32)
- ・人員不足、業務優先のため研修の参加、開催が難しい(32)
- ・病院と異なる職種構成のため研修内容の設定が難しい(29)
- ・研修に関する理解が低く、参加する意欲が乏しい(16)
- ・研修後、業務にうまく活用できない。その場限りになっていることが多い(16)
- ・基礎教育の内容、経験の違い、職種の違いにより個々の職員に差があるため研修の理解度に差がある(13)
- ・指導者、講師、教材の不足(7)
- ・研修会の計画、実施に関してリーダーシップを取れるものがない(3)
- ・老人保健施設をテーマとした研修が少ない。協会自体での取り組みが遅れているように感じる(3)
- ・ケアプランの理解が低い(3)
- ・研修のための予算が少ない(2)
- ・老人保健施設に関する研究が少なく、発表の機会もない(2)
- ・老人を知らない若い看護、介護者にどういった研修を行えば、老人看護の基本的な理解を深めることができるのか悩む(1)
- ・介護職中心の研修が多いので看護婦独自の研修が少ない(1)
- ・一方的な講義になってしまうことが多いので看護職が教科書にはない人間的なケア方法についてなど紹介してほしいと思う(1)

- ・看護協会への入会者が少なく協会の行う研修会への参加者が限定される（1）
- ・研修が多すぎて落ち着いて勤務が出来ない（1）
- ・地域での研修の実体が不明，参加希望はあるが情報不足のため参加できない（1）
- ・新人看護婦への診療補助的技術を教育する機会が少ない。一人夜勤のため緊急時の対応技術が，求められる（1）
- ・介護福祉士にも看護協会で行っているような研修計画があればいいと思う（1）

3) 看護職と介護職との業務分担

看護職と介護職との業務分担については「明確に分担している」9.7%と「ある程度分担している」77.4%を合わせた87.1%が，業務上の分担をしていると答えている。

分担の基準は，「業務内容」が67.0%と最も多い。また6.0%が「入所者の状態」によって業務を分担している（表29）。

表29 看護職と介護職との業務分担

看護職と介護職との業務分担

—	明確に分担している	39 (9.7)
—	ある程度分担している	312 (77.4)
	ほとんど分担していない	43 (10.7)
	まったく分担していない	3 (0.7)
	無 回 答	6 (1.5)
	合 計	403 (100.0)
S Q 分担の基準		
	業 務 内 容	234 (67.0)
	入所者の状態	20 (6.0)
	管理上の地位	2 (1.0)
	そ の 他	8 (2.0)
	無 回 答	87 (25.0)
	合 計	351 (100.0)

4) 看護職は施設全体の管理運営を担っているか

看護職は施設全体の管理運営を担っているかという問に対して，56.3%と過半数が「担っている」と答えている（表30）。

表30 看護職は施設全体の管理運営を担っているか

担っている	227 (56.3)
担っていない	163 (40.4)
無 回 答	13 (3.2)
合 計	403 (100.0)

5) 看護職は施設のケア全体の責任を持つポストについているか

看護職は施設のケア全体の責任を持つポストについているかという問に対しては、8割以上が「はい」と答えている(表31)。

表31 看護職は施設のケア全体の責任を持つポストについているか

は い	336 (83.4)
い い え	61 (15.1)
無 回 答	6 (1.5)
合 計	403 (100.0)

6) フロアの責任者の職種

フロアの責任者の職種は、「看護職」が56.6%と過半数を占めている。次いで「介護職」、「職種に関わらず適性のある人になる」がそれぞれ9.4%となっている(表32)。

表32 フロアの責任者の職種

看 護 職	228 (56.6)
介 護 職	38 (9.4)
職種に関わらず適性のある人になる	38 (9.4)
そ の 他	26 (6.5)
無 回 答	73 (18.1)
合 計	403 (100.0)

7) 介護・看護職員比率の基準

介護看護職員の7分の2以上が看護職員という国の基準についてどう思うかという問に対して、「看護職員が少ない」という回答が58.1%と最も多かった(表33)。

表33 介護看護職員の7分の2以上が看護職員という国の基準について (複数回答)

看護職員が少ない	234 (58.1)
介護職員が少ない	87 (21.6)
適当な比率である	101 (25.1)
回答施設数	403 (100.0)

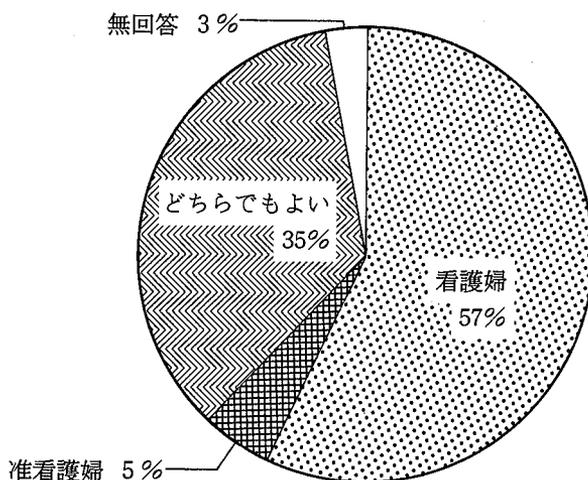
8) 今後採用したい職種

今後採用したい職種について、看護職では看護婦と准看護婦のどちらを増やしたいですかという問に対して「看護婦(士)」を増やしたいという回答が、58.3%、次いで「どちらでもよい」が34.7%であった(表34、図9)。

表34 今後採用したい職種・看護職

看護・准看どちらを増やしたいか	
看護婦(士)	235 (58.3)
准看護婦	18 (4.5)
どちらでもよい	140 (34.7)
無回答	10 (2.5)
合計	403 (100.0)

図9 今後採用したい職種・看護職

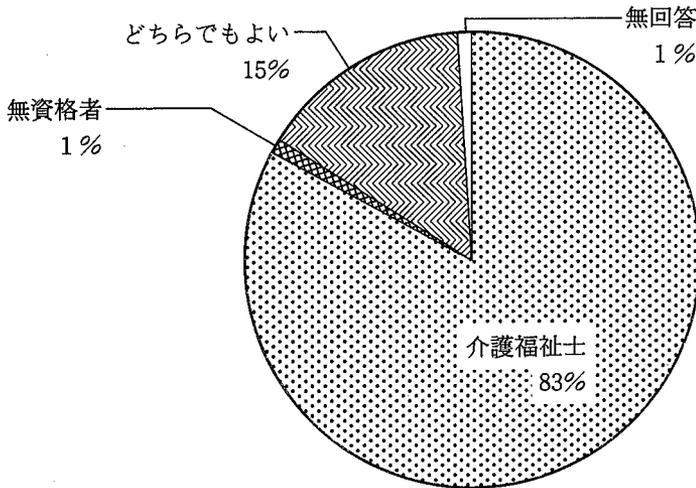


次に介護職で、介護福祉士と無資格者のどちらを採用したいですかという問に対しては、「介護福祉士」を採用したいという回答が、83.6%と、「無資格者」と比べて圧倒的に多い（表35、図10）。今後採用したい職種は、准看護婦よりも看護婦、無資格者よりも介護福祉士という、より専門性の高い職種を採用したいという傾向にあるといえよう。

表35 今後採用したい職種・介護職

介護福祉士・無資格どちらを増やしたいか	
介護福祉士	337 (83.6)
無資格者	3 (0.7)
どちらでもよい	60 (14.9)
無回答	3 (0.7)
合計	403 (100.0)

図10 今後採用したい職種・介護職



9) 採用しやすい職種の順位

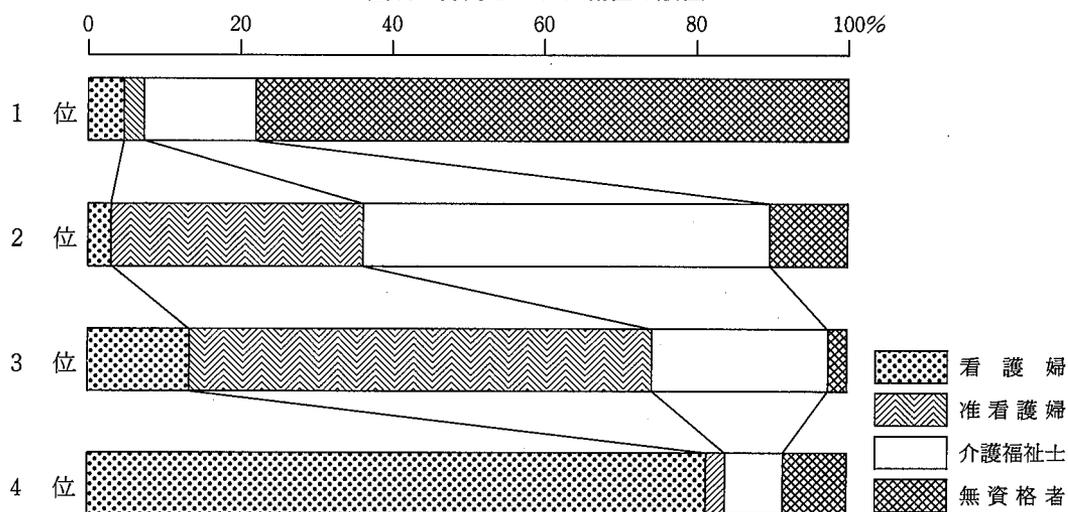
現実的な採用しやすさという面をみると、採用しやすさの第1位は「無資格者」、第2位は「介護福祉士」、第3位は「准看護婦」、第4位は「看護婦」の順になっている。今後採用したい職種と現実に採用しやすい職種とではギャップがある（表36、図11）。

表36 採用しやすい職種の順位

	1位	2位	3位	4位	無回答
A) 看護婦(士)	4.5	3.0	12.9	76.7	3.0
B) 准看護婦(士)	2.5	32.3	59.1	2.2	4.0
C) 介護福祉士	14.4	52.4	22.8	7.2	3.2
D) 無資格者	76.7	9.9	2.2	7.7	3.5

N=403 (数値はパーセンテージ)

図11 採用しやすい職種の順位



10) 看護・介護職員の満足度

回答者からみて看護職員は満足しているかという問に関しては、「給与」以外は「まあ満足」と答えている比率が最も多く、ほぼ満足傾向にある。特に「勤務形態」に関しては、72.5%が「まあまあ満足している」と答えている (表37, 図12)。

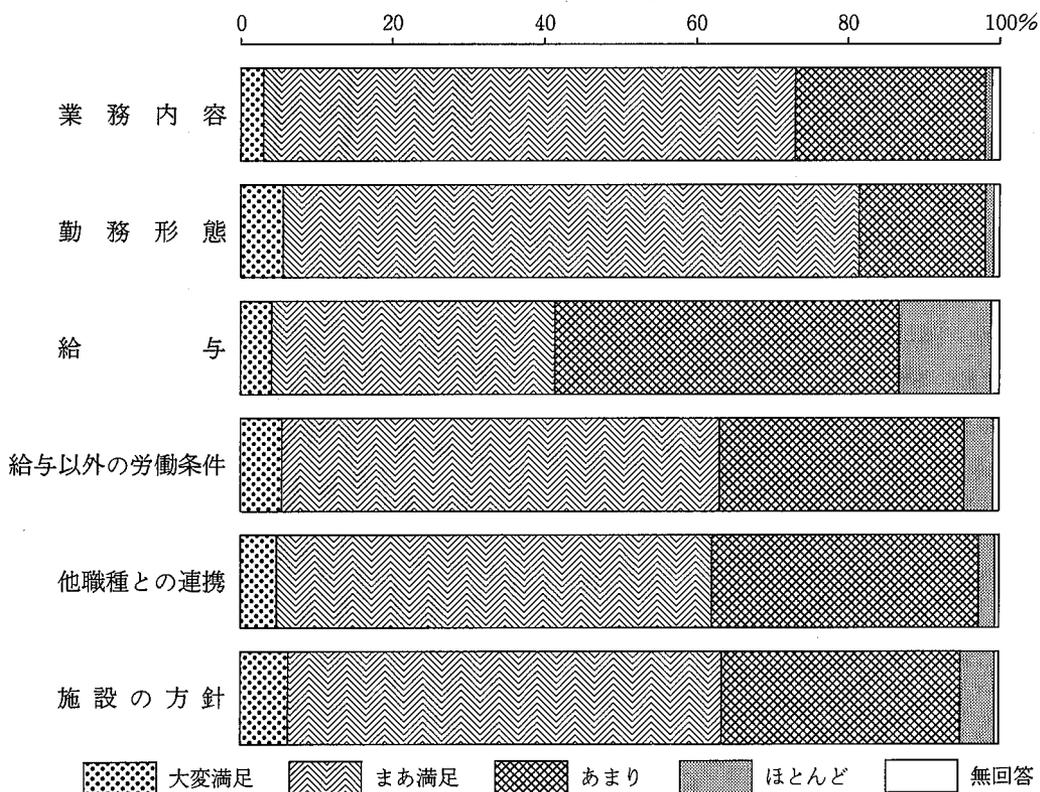
表37 看護職員の満足

1. たいへん満足している 2. まあまあ満足している 3. あまり満足していない
4. ほとんど満足していない

	1	2	3	4	無回答
A) 業務の内容	1.2	63.5	31.8	2.2	1.2
B) 勤務形態	6.2	72.5	19.1	1.5	0.7
C) 給与	1.7	43.7	41.7	11.7	1.2
D) 給与以外の労働条件	5.5	58.6	30.0	4.2	1.7
E) 他職種との連携	5.2	59.8	31.5	2.7	0.7
F) 施設の方針	5.5	57.8	29.5	6.2	1.0

N=403 (数値はパーセンテージ)

図12 看護職員の満足度



介護職員は満足しているかという問に対しては、看護職員と同様、「給与」以外は満足しているとみている。特に「勤務形態」や「業務の内容」に満足しているとみている人が多い(表38, 図13)。

表38 介護職員の満足

1. たいへん満足している 2. まあまあ満足している
 3. あまり満足していない 4. ほとんど満足していない

	1	2	3	4	無回答
A) 業務の内容	2.7	70.5	24.8	0.7	1.2
B) 勤務形態	5.7	75.9	16.4	1.0	1.0
C) 給与	4.2	37.2	45.2	12.2	1.2
D) 給与以外の労働条件	5.5	57.8	32.0	3.7	1.0
E) 他職種との連携	4.5	57.6	35.2	2.0	0.7
F) 施設の方針	6.2	57.3	31.3	4.5	0.7

N=403 (数値はパーセンテージ)

図13 介護職員の満足度

